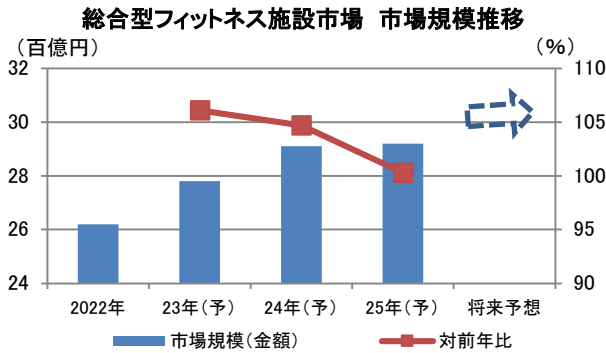


業界アウトライン

・2023年7月時点のフィットネス施設数は、総合型が1,147施設、小規模型が2,114施設、24時間型が3,141施設、ヨガ型が1,143施設、その他が3,065施設で、24時間型フィットネス施設が最も多く、全体の29.6%を占めている。

注目市場

総合型フィットネス施設市場



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

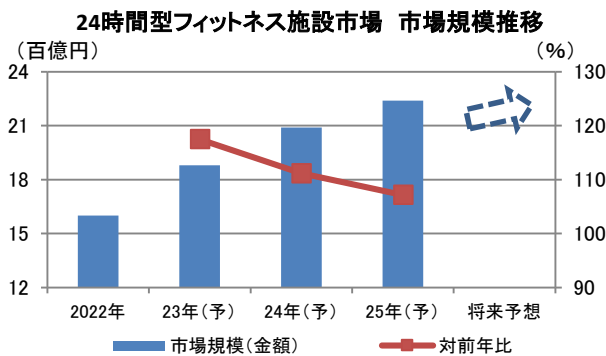
- ・2023年の総合型フィットネス施設市場規模は、2,780億円(対前年比106.1%)と見込まれる。
- ・フィットネス施設は、「プール」「ジム」「スタジオ」の3要素に大別できるが、これらの3要素を全て兼ね備えた施設を「総合型」としている。
- ・近年、24時間型の小型フィットネス施設による全国的な店舗拡大を受けて、総合型もジムエリアを24時間営業にするなど、対応を進めている。

■業界動向／事業者動向

- ・コロナ禍で健康ニーズが高まり、フィットネス市場は中期的には成長していく見込みだが、光熱費や建築費の高騰により、総合型の新規出店ペースは鈍化すると考えられる。既存の施設を活かし、総合型ならではの魅力を時代のニーズに合わせて提供することで、市場の拡大・維持が図られるとみられる。
- ・総合型の運営事業者では、自治体からの受託事業が拡大傾向にある。特に、学校水泳授業をはじめとした体育の授業への講師派遣等、総合型が有するプールの指導力を活かし、教員の授業負担の軽減や専門指導員不足を補うための小中学校の授業や部活の支援事業に注力する動きがみられる。

注目市場

24時間型フィットネス施設市場



※出典 矢野経済研究所

■市場環境

- ・2023年の24時間型フィットネス施設市場規模は、1,880億円(対前年比117.5%)と見込まれる。
- ・「24時間型」は、一部を除き24時間営業かつセルフサービスの時間帯があるフィットネス施設を指し、3要素のうち「ジム」のみの構成となる。
- ・24時間型はFC展開の業態が多く、関連業種や異業種からの参入も多い。業種を問わず、競争が増えていることから、運動以外のコンテンツ・サービスは一層多様化していくとみられる。

■業界動向／事業者動向

- ・24時間型は、施設規模が小さいため、設備投資が低額で済むことに加えて、セルフサービスの時間帯もあるなど、人的な要素が少ないことから、設備投資型ビジネスの色が強く、利益構造がストックビジネスに近いことがメリットであり、参入事業者が増加しているとみられる。
- ・近年急増したライト層向け24時間型は、今までフィットネス施設に通っていない層を取り込みつつ市場拡大を目指しており、ライト層向け24時間型で運動に慣れた人が、より高度な運動を求め、従来型の24時間型や他の業態のフィットネス施設に移行することで、市場は成長を続けると見込まれる。